

【種族】吸血鬼
【能力】ありとあらゆるものを破壊する程度の能力
【強さ位置】準最強グループ2

【設定】

レミリアと同様。

吸血鬼にして魔法少女で、495年程、悪魔の妹をしています。
レミリアをお姉様と慕うも、その歯止めの効かない破壊力は、遥かにお姉様を凌ぎます。
通常、吸血鬼は食事をするために、人間を殺さない程度にしか襲いませんが、フランドールは与えられたものしか食べたことが無いため、人間の襲い方を知りません。そのため手加減が出来なく、一滴の血も残さず吹き飛ばしてしまいます。
(『紅魔郷』の「おまけ.txt」)

紅魔館の中でも仲の良い妖怪は少なく、常に孤立している。
姉のレミリアですら、一緒にいる姿は余り確認されていない。
そう言った理由からか、未だ謎が多い妖怪である。
破壊の能力を持ち、触れようが触れまいが物を破壊してしまうと言われている。
一緒に遊んでも作った物を片っ端から壊されてしまうので、誰も一緒に遊んでくれないのだろう。

・ 対策

たとえ姉のレミリアが留守にしている時でも、家の中にはまだ吸血鬼が居るので不用意に忍び込んだりしてはいけない。
彼女の能力は謎が多く、どのように破壊されるのか？有効な距離は？有効な大きさは？など殆ど判っていない。
ただ一つ言える事は、もの凄く危険な能力だという事である。
それに加えて吸血鬼の持つ超人的な身体能力も当然ながら持っており、間違いなく勝負にならないだろう。
(『求聞史紀』の「悪魔の妹 フランドール・スカーレット」)

【能力概要】

第百二十季 弥生の四

巨大流れ星空中爆発
隕石衝突の危機を回避

○月○日23時頃、幻想郷の上空で激しい爆音と閃光があった。
閃光の正体は流れ星の大爆発だった。
後日、驚くべき事に、この爆発は人為的な出来事という事が判明した。

流れ星を爆発させたのは、フランドール・スカーレット(吸血鬼)。

「流れ星？ ほら、私の手にかかればあの程度の物は一捻りよ。きゅきゅきゅっとね。大体、隕石一つでどうなるって言うのよ、隕石なんて私には意味がないって事が判らないのかしら？ まだ槍が降ってきた方が怖いわよ。いや雨の方が怖いわね。あーまんじゅう怖くない」

支離滅裂でほとんど意味が通じなかったが、流れ星を爆発させることは簡単だということだけは判った。
どうやって隕石を爆発させることが出来たのかを聞いてみた。

「全ての物には目って物があるねえ。そこをきゅっとつつけばドカーンよ。
え？ どうやって流れ星に近づいて目をつついたかって？
流れ星の目が此処にあったのよ。私の手の上に。というか全ての物の目は右手の上にあるんだけどね。
だからきゅーっと一捻りして……」

実はその隕石はまっすぐ紅魔館に向かっていたと言うのだ。
さらに、なんと当日の隕石は予定されていたと言う。隕石はその日のその時間に紅魔館に落ちてくる事が決まっていた。
放っておけば紅魔館のみならず、周辺に甚大な被害を被るところだったという。

ただ、妹が隕石を爆発させる事もまた予定されていた。
主の話はそこで終わったが、何とも不思議な話である。
(『文花帖』の「第百二十季 弥生の四」)

レミリア：隕石は予定されていたというか、隕石は人為的に落とされたのよ。この紅魔館の真上に、きっちり狙ってね。
人為的な隕石という証拠にほら、この隕石の欠片見て御覧なさい。呪文でびっしりでしょう？
文：もしかして、隕石を使って誰かが攻撃を仕掛けてきているとか、それと戦っているとか……

フラン：さあねえ。
(『文花帖』の「フランドール・スカーレット」インタビュー)

どうやって物を破壊するのかというと、全ての物質には「目」という最も緊張している部分があって、そこに力を加えればあっけなく破壊できるのだ。

彼女はその「目」を移動させ、自分の手の中に作る事が出来るという。
つまり、彼女の手の中にある「目」を自分で潰せば(*2)、物は壊れてしまう。
抗い様の無い恐ろしい能力である。

(*2) 拳を握りしめると対象が破壊される。
(『求聞史紀』の「悪魔の妹 フランドール・スカーレット」)

【各種要素をふまえての強さ議論】

吸血鬼としての地力・物質であるならなんでも破壊できる能力。
魔法少女設定もあるので、魔法も使えると思われる。

身体能力・魔法・能力と三拍子揃ったカタログスペックで、準最強グループ2ではトップ争いが出来る強さ。
しかし吸血鬼としての弱点が多いために、相対的に見てこのランキングに。(レミリアも同様)
何か強固な実績や経験、他者評価等があれば準最強1に上げられる可能性はある。

また、妖怪は「人間より肉体が頑丈であり、五体がバラバラになる様な事があってもすぐに治癒する」「人間よりも信念に作用されやすく、精神的なダメージが致命傷となる」という特性があり、精神のような非物質や概念的なものをフランの能力で破壊できるかは不明瞭で、見解・解釈が分かれることがある。